



MONGOLIA

学校名：東京都立山崎高等学校

氏名：川島 直子

[担当教科：英語]

- 実践教科等：コミュニケーション英語Ⅱ
- 時間数：3時間
- 対象生徒：高校2年生
- 対象人数：30人

1 単元名

国際社会の中の日本

2 単元の目標（ESDの能力・態度）

- ・話し合いを行う中で、他者との価値観、意見の違いに気づく。（多面的、総合的に考える力）
- ・ワークショップを通して、社会と教育が相互に関連し、影響していることに気づく。
（多面的、総合的に考える力）
- ・モンゴルの現状を知り、持続可能な援助の必要性に気づく。（未来像を予測して計画を立てる力）

3 ESD(持続可能な社会づくり)の視点

多様性	相互性	有限性	公平性	連携性	責任性
-----	-----	-----	-----	-----	-----

- ・モンゴルの文化について知り、異文化に対して興味を持つ【多様性】
- ・日本と世界の相互依存関係に気づく【相互性】
- ・開発途上国の問題を解決するために、日本や自分にできることを考える【責任性】

4 単元の指導について

(1)教材観

モンゴル研修というまたとない機会を得て手にした現地の情報や、写真やビデオといった視覚教材を用いた。モンゴルという国はどんな国であるか、また発展途上国や他の国の暮らしはどのようなものであるか、またそれらの国と日本とのかかわりを考えさせるのに適した生きた教材である。また JICA のホームページからも関連するニュースを紹介した。

(2)児童生徒観

コミュニケーション英語Ⅱのスタンダードクラスであるため、語学や海外に関心がある生徒が多い。英語での導入もゆっくりであれば全員が聞き取ることができる。またペアワークやグループでの学習を普段から取り入れているため、グループ活動は活発に行うことができる。英語を話す国だけではなく、多様な国のことを知り理解するきっかけとなるようモンゴルの事例を通して考えさせたい。

(3)指導観

学期始めは自己紹介や夏休みについてなど、また習った表現を用いるなどスモールステップをふませながら達成感を得られるよう英語でのスピーチをさせている。1学期の自己他己紹介に続き、2学期は教員のモンゴルでの体験について話し、生徒はそれを参考にショートスピーチを作成・発表するところから始めた。

5 評価規準

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	理解
評価規準	しっかり話を聞いているか。	自分の意見をしっかりと述べているか。	振り返りシートにまとめをきちんと記入しているか。
評価方法	観察	発言・ワークシート	ワークシート

6 単元の構成

※太枠の授業内容詳細を「7 授業事例の紹介」に記載

時限	小単元名	学習のねらい	授業内容
1	How was your summer vacation? (あなたの夏休みは?)	・教員の夏休みについてのスピーチを聞き、自分の夏休みについてまとめる。	・教員がモンゴルで撮影した写真を見て、モンゴルや遊牧民の暮らしについて知る。 ・自分の夏休みについて発表する原稿を作る。
2	Let's cook Mongolian food! (モンゴル料理を作ってみよう!)	・モンゴルの伝統料理について知る。 ・前回の授業で作成した原稿を用いて、聞く人に伝えるように発表する。	・モンゴルの伝統料理であるホーショールの作り方をリスニングで知る。 ・自分の夏休みについて発表する。また他の人の発表を聞く。
3	Nobel Peace Prize and developing countries (ノーベル賞と発展途上国)	・ノーベル賞について知る。 ・寄付をすることの意味について考える。 ・発展途上国の課題を知り、解決策を考える。	・ノーベル賞を受賞した日本人3名とマララさん及び JICA の援助について知る。 ・ワークショップ「援助する前に考えよう」内のワーク1「1枚の看板」を実施する。 ・モンゴルの孤児院の子どもの写真を通して、モンゴルの抱える問題について考える。

7 授業事例の紹介

小単元名【 Nobel Peace Prize and developing countries(ノーベル賞と発展途上国)】

(1) 指導案

(ア)実施日時 11月15日(土)第3限

(イ)実施会場 3B 教室

(ウ)本時の目標 発展途上国の課題について考える

(エ)指導のポイント

・ニュースの題材を用いて生徒の興味・関心を高める。

・実際の写真を効果的に用いて、日本と発展途上国の関係を考えさせる。

(オ)本時の展開

過程・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価規準・評価方法)
導入 5分	ノーベル賞について英語で話す。 青色 LED を開発した日本人と JICA の活動について説明する。	ウォーミングアップとして、ニュースで紹介されていたノーベル賞について英語で話を聞く。 青色 LED を開発した日本人3名と平和賞を受賞したマララさんについて知る。 JICA の援助現場の写真を見て、LED ライトが発展途上国の暮らしに役立っていることと、日本の援助によって普及が進んでいることを知る。	全体指導	話題となっているニュースを英語で聞く体験があまりないため、なるべくゆっくり話す。 生徒が理解できているか、問いかけをしながら話す。 実際の写真を見せて、ノーベル賞が発展途上国の暮らしに役立っていることを理解させる。	しっかり話を聞いているか。
展開 30分	グループにワークシートを配布する。 ワークショップを実施し、寄付をすることの意味について考えさせる。	ワークショップ「援助する前に考えよう」内ワーク1「1枚の看板」の実施を通して、自分であれば寄付をするかどうかについてグループで話し合う。	グループ活動	寄付について正解はないこと、どのような形の寄付が発展途上国に良いものとなるかを考えさせる。また他人の意見も聞き、自分の行動と照らし合わせて考えさせる。 困っている人にお金を与えることだけがよいことではないことを理解させる。	自分の意見をしっかりと述べているか。 ワークシートの記入内容。

まとめ 5分	発展途上国の課題を紹介し生徒自身で解決を考えさせる。	教員がモンゴルで撮影した孤児院の子供の写真を見せ、モンゴルの抱える問題について考える	グループ活動	ただ「かわいそう」とならないように、モンゴルの現状と援助の形について具体的に考えるよう指導する。	自分の意見をしっかりと述べているか。
	振り返りシートを配布し、記入させる	本日紹介した3項目について感想や意見を書く。	ワークシート記入	援助の実情やニュースで何気なく知っていたことの裏に日本と世界のかかわりがあることを気付かせるよう、声掛けをする。	振り返りシートにまとめをきちんと記入しているか。

(2) 授業の振り返り

授業実施日に合わせてその週のニュースをうまく授業に取り入れることができた。英語のみでは理解が難しい部分については日本語で説明しながら紹介した。またグループで意見を交換させることで、生徒にとって身近な問題となり多くの意見を引き出すことができた。

[生徒達の意見・感想]

1. Nobel Prize

【問い】青色 LED の開発で日本人3名が、平和貢献の分野でマララさんがノーベル賞を受賞しました。青色 LED が発明されたことによって発展途上国の国々にも灯りがとまり、その光で子供たちが勉強している写真を見ての感想を述べてください。

【生徒の感想】

- ・LED ができて、私の生活は全く変わらなかったけど、モンゴルなどライフラインがしっかり出来ていない場所にしてみたら、とてつもなく大きな変化だったんだなと思った
- ・青色 LED は構造が他の色と比べて難しいらしいけど、もっと普及すればもっと貧しい国でも使えるようになると思う。
- ・マララさんは命を狙われながらも、みんなのために精一杯動いていて、とても感動したし、自分はものすごいちっぽけだなと思ったので、小さな事から始めたいなと思った。

2. 寄付する？しない？

【問い】発展途上国を旅行中に「この村の学校のために10ドル寄付をお願いします」という看板を見つけました。あなたなら、どうしますか？

【寄付をするという生徒の意見】

- ・1200 円ぐらいなら出せるから。
- ・日本人の「思いやり、助け合いの心」
- ・子どもは好きだし、協力したいと思ったから。
- ・怪しいから半分の5ドルにした。
- ・払うけど、他の国に頼ってばかりではダメかな。
- ・自分でその場所に行って、その村の状況が悪かったら寄付する。

【寄付をしないという生徒の意見】

- ・自分の寄付したお金がどこに使われるかわからないから。
- ・看板ひとつでは疑わしいから。人の信用を得るのはたいへんなこと。

3. Your idea

【問い】前授業から続いて、教員が訪れたモンゴルの紹介をしてきました。今日は孤児院に住む1人の少女の写真を見ましたが、18才で施設を出た後に仕事に就けず、ストリートに戻ってしまったリ、マンホールで暮らす人もいます。どのような取り組みをしたら、防げるでしょうか。またこれらの写真を見た感想を述べてください。

【生徒の意見】

- ・仕事や技術をモンゴルへ教える。

- ・外国からの支援を受けて、(子どもたちに)いろいろな体験をさせる。
- ・(子供たちが)現地ガイドになる。
- ・ボランティアも良いが、(発展途上国の人たちも)少しは自分たちで頑張った方がいいと思う。
- ・格差が生まれるのは仕方のないこと。
- ・寄付してもその国が変えようとしなければ、何も変わらない。
- ・モンゴルの一部に寄付やボランティアに行っても、国全体が豊かになるわけでもなく、他の世界中の発展途上国は貧しいままだと思うので、よく考えてみないと何が役に立つことかはわからない。
- ・大きくて他を見れるくらいの余裕がある国と併合する。
- ・(孤児院でパン焼き器が寄付されたので)パンの原料の小麦粉を寄付する。
- ・そういう状況があることをみんなに知ってもらうことが大事。知らなければ何もできないと思うので。
- ・就職、住む場所、生きられるまでサポートする施設をつくる。格差をなくす。

(3) 使用教材

- ・現地で撮影した写真



モンゴルで撮影した孤児院の少女

- ・ワークショップ用記入用シート(グループに1枚配布)

2-3,2-4 Communication English	
The Nobel Prize and Developing countries	
【 寄付する？しない？ 】 発展途上国を旅行中に、「この村の学校のために10ドル寄付をお願いします」という看板を見つけました。あなたなら、どうしますか？ (寄付は強制ではありません、グループで自由に話し合ってください。) メモをとりましょう。班ごとに出的意見を後で発表してもらいます。	
[金額]	
[理由]	
[グループの合計]	

・振り返りシート

2-3,2-4 Communication English		
The Nobel Prize and Developing countries		
[振り返りシート]		
Class	No.	Name
今日の授業を振り返って、学んだことや考えたことを書きましょう。		
1. The Nobel Prize		
2. 寄付する？しない？		
3. Your idea モンゴルの孤児院の少女たちの写真を紹介しました。18才になって院を出たあと、ストリートやマンホールに住んだり、住むところや仕事が見つけられず、院に戻ってきてしまう子もいます。彼女たちがこの後も幸せに暮らしていくには、どうしたらよいでしょうか。 また今までに見たモンゴルの課題(環境・ゴミ・経済など)を解決するためのアイデアや意見を書いてください。		

(4) 参考資料等

- ・『「援助」する前に考えよう-参加型開発とPLAが分かる本-』田中治彦、開発教育協会(2006年)
- ・JICA「Delivering Innovation 世界を変えるイノベーション」
<<http://www.jica.go.jp/publication/pamph/pdf/led.pdf>> (2015年1月20日アクセス)

8 単元をととした児童生徒の反応/変化

生徒からは思ったより多くの意見が出たことに驚いた。また、グループ協議が活発に行われたため、様々な意見を引き出すことができ、生徒の可能性について感じる事ができた。
授業後の生徒は、12月に実施されたユニセフの講演会後のアンケートでも高い関心を示していた。
内向きな生徒が多いと言われているが、この授業をきっかけに発展途上国の問題を考えたり、日本と他の国のつながりについてさらに意識し関心を高めてくれることを期待したい。

9 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

コミュニケーション英語の授業では、英語で日ごろからニュースや季節の話題を紹介しているが、モンゴルの話は生徒にとって大変興味深いものであったようだ。夏休み明け1回目の授業ではモンゴル滞在の話のあとにモンゴルについて知っていることを生徒から発表させたが、朝青龍を始めいろいろなものが出た。教員が実際に行った体験を話したり、写真を見せることでより関心を持たせることができた。

授業ではグループワークを通して生徒たちに考えさせる時間をなるべく多くとった。適切な題材を、適切な形で提供することにより、生徒たちは自分の意見を述べたり発表するにいたった。また本学の2学年の教員でベトナム視察に参加した者がおり、学年の総合の時間で12月にユニセフの講演会があった。それに先駆けてこのクラスでは発展途上国の現状について予備知識として紹介し深めることができた点が良かった。

「持続可能な社会づくりについて理解し自分たちができることを考える」ことの第一歩としての目標は達成できたが、課題としては2学年および3学年の一部で限られた時間での授業実践だったため、文化祭など全校的な行事を活用し、さらに内容を深めて紹介ができればよいのではないかと考える。

10 教師海外研修に参加して

・発展と課題

若い世代は教育を受けるためにウランバートルに移住し、そのことがウランバートルへの一極集中およびインフラが追い付かない、交通渋滞、中国の5倍とも言われる大気汚染など様々な問題を引き起こしている。その一方で、昔ながらの遊牧民のゲルは減少し、伝統文化の継承が危ぶまれている。日本の京都などにも当てはまるが、都市の発展と伝統文化保存のバランスをどうとっていくかは大きな課題であると感じた。

・先進国の役割とは？

モンゴルはその厳しい気象条件などから、整備したアスファルトが1年で壊れてしまうこともあるという。日本の技術は生かせないのか。また環境破壊や大気汚染問題は日本も経験してきたことである。なぜそのようなことがまた他の国で繰り返されてしまうのか。ゴミの分別などから始め人々の意識を変えるには長い時間が必要であると感じた。